

令和5年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。

・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。

・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。

・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(社会科) 教科主任名 羽鳥 聖子

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜○成果 ▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	○発問や景観資料に対して、意欲的に学習に取り組んでいる。 ▲既習事項を活用する力が乏しい生徒がいる。国名をなかなか覚えていない。 ○授業に対して意欲的に取り組む姿勢が見られ、積極的な発言が目立っている。 ▲歴史への苦手意識が強く、基礎知識が十分身に付いていない生徒が多い。	・今後も小テストや単元テストを継続する。・国名リレーをクラス対抗で行うことで、学級全体で協力し合って国名を覚えることにつながった。 ・これまで以上に考えさせる発問を増やし、習得した知識と結び付け、言語化させる機会を増やす。 ・歴史への興味関心を高めるような視覚資料を多用していく。基礎的知識に関する小テストを定期的に実施する。	1年			
	2年	○世界から日本地理に学習分野が変わり、これまでに以上に意欲的な姿勢で学習に取り組んでいる。 ▲割合を示した資料やグラフの内容を正確に読み取ったり、必要な情報を取り出したりすることに課題が見られる。 ○事象と事象を結び付けて理解することに関して1年時と比較すると向上していることが、試験での記述やワークシート記述から読み取れる。 ▲一方で事象を関連付けて理解することに苦手を示す生徒がいること、また結び付けたことを活用して考えることに対して苦手を示す生徒は多い。	・より身近に学習地域を感じてもらえるように、地域別の特産物などの視覚教材を多用し、生徒の興味・関心を高めた。 ・授業の中やワークシートで資料から情報を読み取る問いを増やしていく。 ・段階的な理解や発問を通し、スモールステップで、連関した知識の獲得を目指していく。	2年			
	3年	○5月授業アンケートで「よくわかる44.5%+どちらかちいえはわかる37.6%=82.3%」であった。 「6月復習確認テストで都平均41.8点を超えた。」 ▲6月復習確認テストで30点未満の生徒が38名いる。 ○授業を通して学んだことを、まとめることができたり、それらを活用し新たな疑問を探求することができている。 ▲上記についての個人差はあり、不十分であったり、苦手を示す生徒がいる。	・定着しているワークシートとノートを継続し、復習で振り返れるようにする。 ・2年生復習確認問題集(要点マスター)を定期テスト対策で使い、入試問題の準備を行う。 ・授業の中で、理解したことを使って何かを探求する場面や、それらを活用する場면을積極的に創出する。	3年			
思考・判断・表現	1年	○話し合いを続けることで意見が出ることが増えた。 ▲雨温図や資料を読み取り文章で表現することを苦手とする傾向がある生徒が多い。 ○歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多角的・多面的に考察することができる。 ▲年表をはじめとした資料から必要な情報を取捨選択することを苦手とする傾向が見られる。	・主体的・対話的で深い学びができるよう他者との協働的な学び合いにより施行したり判断したりできる時間を確保する。 ・ワークシートに資料から情報を読み取る発問を増やしていくことで、資料を活用する能力を育む。 ・自らの学びを深めるためにも話し合い活動の場を増やす。	1年			
	2年	○発問に対して、常に自分で考え、周囲と意見を共有しながら問題を解決する力が少しずつ身に付いてきた。 ▲社会的事象同士の関連について、多面的・多角的に考察することに困難が見られる。	・話し合い活動を通し、自分で考えたことを積極的に周囲へ伝える姿勢が見られるようになった。 ・複数の資料を読み取り必要な情報を取捨選択させるほか、「なぜそのようなことが起きるのか」ということを社会背景や地理的歴史的要因から考えさせる場面を設ける。	2年			
	3年	○毎時の授業の「論点テーマ」に対して、自分の意見をノートに短文で書ける生徒が増えた。 ▲定期テストの短文回答欄に記述できない生徒がいる。 ○複数の資料から情報を読み取り、それら結び付けて理解することができる生徒が振り返りシートや試験での記述から読み取れる。 ▲上記についての個人差はあり、不十分であったり、苦手を示す生徒がいる。	・「論点テーマ」を明確にした授業を続ける。 ・短文で結論し、根拠を具体的に付け足して字数条件を満たせるように指導する。 ・他者とともに活動を行う機会や、モデルを示すことで、苦手を示す生徒の一助とした。	3年			
	1年	○地形図を読み取る課題は熱心に完成させようとする。NIE授業を図書館で実施し社会問題に関心を向ける生徒が増えた。▲率先して自分の考えを述べる生徒は固定されている。 ○定期考査後にリターンズという名の再テストを実施し、家庭学習をする機会を増やしている。 ▲授業毎に使用するワークシートに記入する単元の振り返りを、自分の言葉で書くことができない。	・評価規準を最初に説明し、模範になる生徒の作品やプリントなどを見せる。・7月実施のアンケート内容から関心のあるテーマを積極的に取り入れる。 ・リターンズに対する意識の高さにバラツキがあり、しっかり準備できていない生徒が多かった。今後は、実施時期など周知徹底を図っていく。 ・ただ単に振り返りを記入するだけでなく、内容を発表し、クラスで内容を共有する。	1年			

主体的に学習に取り組む態度	2年	○単元の終わりにパフォーマンス課題を提示し、知識・技能を活用する場面をつくった。 ○授業の復習や試験勉強をすることが増えて、知識的な面において、伸長が見られる。 ▲目標までどのように勉強をするとよいのか、疑問点に答えを出す際に、どのように探求をするとよいのか、学習や探求の見通しを立てることが苦手な生徒が多い。	・パフォーマンス課題に取り組むことで、学習内容を結び付けた記述が増えた。また、根拠をもって意見を考えたり、説明したりする力を高められた。 ・複数の資料を読み取り必要な情報を取捨選択させるほか、「なぜそのようなことが起きるのか」ということを社会背景や地理的要因から考えさせる場面を設ける。 ・	2年			
	3年	○地理の学習内容を歴史・公民の理解につなげられる生徒が増えた。 ▲字を書く、地図で記すことの精度を上げたい生徒がいる。 ○振り返りシートにその日の学びをまとめることができたり、自らの経験や既習知識と結びつけることができる生徒が多い。	○歴史・公民の授業で、テーマ地域の地図を使用し、興味関心を高める。 ▲長期計画で「書く家庭学習」を課題とし、定期テストに出題して成果を上げさせる。 ・振り返りシートを活用したパフォーマンス課題を課しているが、引き続き適宜行っていく。	3年			